

町の生活情報紙
— IIDE PUBLIC RELATIONS —

広報 しいいで

1

14, January
2010
Vol.994

パパかっこいいよ。

特集◎新春座談
にぎわい再現プロジェクト委員×町長

“にぎわい再現”
芽生えの年に

SPECIAL EDITION

- 03 年頭のごあいさつ
- 04 2010年新春座談 “にぎわい再現” 芽生えの年～
～にぎわい再現プロジェクト委員×後藤幸平町長～
- 10 まちかどNEWS
ふるさと飯豊発見隊・風土会キャンドルナイト／プレミア
ム付き商品券販売／四季の歌“冬うた”を歌う集いほか
- 12 中村史発刊 ～地域の誇りをここに記す～
- 14 直伝おふくろの味
- 15 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 16 リレーエッセー 校長室便り／東京飯豊会から新年の
ごあいさつ
- 17 異動の手続きについて
- 18 町県民税申告相談会のお知らせ
- 20 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 22 夢はかなう。～世界各地の貧困国で支援活動に従事
鈴木真紀さんインタビュー～
- 24 未来につなぐ～いいでの美しさをいつまでも～

町のホームページから

さらに情報を！

町からのお知らせ情報は、
飯豊町ホームページ www.town.iie.yamagata.jp
でも紹介しています。
知りたい情報は、「検索キーワード」を、ホームページの
検索ボックスに打ち込んでください。当該ページへ簡単
に移動することができます。

こちらのボックスに
「検索キーワード」を
打ち込んでください。



表紙

今月の親子

椿在住

たかし
長沼 隆さん(37歳)
みか
美香さん(34歳)
はのか
暖香ちゃん(6歳)



左から美香さん、隆さん、
暖香ちゃん

隆さんは、午前3時には
除雪車に乗り、町道の除雪
に出発します。起こしてあ
げるのは、美香さんの役目。
夫婦で力を合わせて仕事を
しています。二人の夢は、
愛娘の暖香ちゃんと親子で
旅行。「仕事、仕事で新婚旅
行にも行けなかったので」
と隆さん。今年こそ長沼家
の夢がかないますように。



the most beautiful
villages
in japan
「日本で最も美しい村」連合

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。
これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。

年頭のごあいさつ

飯豊町長 後藤幸平

新年明けましておめでとうございます。力強い生命が種から芽生え、草木が伸び始める意味の「寅」年を迎えました。今こそ農村が培ってきた文化や暮らし、なごりわいを発信するときです。都会の繁栄だけが謳歌されるように見えても、実は、着実に美しいふるさとの山河を見直そうとの気運が高まりつつあります。

飯豊町は今、全国どぶろく研究大会のコンテストで町内産どぶろくが二年連続の最優秀賞受賞、女声合唱団「コーラル・めざみ」の全日本おかあさんコーラス全国大会出場のほか、産業、芸術、消防・ボランティア活動、にぎわい再現プロジェクトなど多彩な分野で町民の皆さんが活躍され、上昇気流の風を感じます。私たちは、これまで取り組んできたまちづくりの理念をさらに高め、第四次総合計画を策定し、キラリと光輝く町になるよう力を合わせていきたいと思います。

未来を描こうとすると、歴史の探求が始まり、誇りが生まれます。歴史的文化的財の保存と遺跡の整備を進めます。また、乳幼児から高校まで育児と教育環境の充実を図り、「子育てと住まいは飯豊で！」と実感できる町を目指します。福

社事業所「でんでん」を開所し、障がいを取り組めます。飯豊町と喜多方市を結ぶ大規模林道飯豊松枝岐線の開通に着手します。農商工連携による「飯豊のブランド化」を促進して、「仕事づくり」を実現します。つや姫や米沢牛の主産地としてその地位の確立に努めます。本格的な木質ペレット燃料の生産が始まる中、ハイブリッド・ペレットストーブの研究開発と普及を産学官の協力で進め、雪国の快適な暮らしを提案しながら森林の保全と地球温暖化防止に貢献します。上水道の安定供給のため「自然伏流水の探索」などを開始します。どんでん平ゆり園は、一年を通してお客様が楽しめる公園にリニューアルを図ります。

井戸端やいりり端のにぎわい再現を求め「にぎわい茶房」村の生活共同組合などの事業を始動させるなど「いいで未来号」の出航で得た若者の近未来計画をさらに発展させ、本町に人々が集い、歌声と幸福の歓声がこだまするよう手をつなぎたくましく歩き始めます。

結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

にぎわい
再現！
2010

“にぎわい再現” 芽生えの年に



にぎわい再現プロジェクト委員 × 後藤幸平町長



写真／前列左から時計回りに後藤幸平町長、高橋勝さん、屋嶋雅一さん、伊藤照美さん

にぎわい再現とは？

—— 初めに、町長が掲げる「にぎわい再現」とは何か教えてください。

町長 にぎわい再現は、町の政策の柱です。人口減少の原因は何か？

私が子どもころの町のにぎわいはどこへ行ったのか？ その原因を解

明し、再現するために若者を中心とした「にぎわい再現プロジェクト委員

会（以下「委員会」という。）を立ち上げました。柔軟な発想で町の

にぎわいを取り戻すことが目標です。一過性のイベントではなく、かつて

あった井戸端のにぎわいや家庭内のいりり端のにぎわいが大切なのです。

役場内にプロジェクト推進室を設置し、委員の皆さんの積極的な話し合

いをサポートしています。昨年にはにぎわい再現に向けた第一ステージの

年でありました。

—— これまでに委員会は何度開催され、どのような話し合いや活動を

してきましたか？

高橋 四月の発足からおよそ月二回のペースで集まり、合計十二回の会

議を開きました。十三名の委員は、それぞれが職種や地域が異なる中で、

自分の時間を削りながら集まっています。昨年七月までは「いいで未来

号」の準備に追われ、実質的な話し合いは、九月から始まりました。十月には、飯豊中学校周辺を思い思いに歩いて交流を深める「てくてくら

ぶ」を発案し、スタートさせました。また十一月に開かれた「いいで秋の収穫祭」では「にぎわいカフェ」と銘打って喫茶店をオープンし、コー

ヒーなどをお客様に振る舞い、交流の場をつくりました。少しずつです

が、アイデアを実行に移すことができるようになったと思っています。

—— 皆さんはなぜ委員になろうと思われたのですか？

屋嶋 私は長男に生まれ、一生この町で暮らすつもりで育ってきました。

住む以上は良い町にしたい、そして次の世代の人たちに残したい。その

ためには自分でアクションを起こそうと、委員会への参加を決めました。

伊藤 私は、一つのテーマに対して多くの人とアイデアを出し合うことが好きでした。異なる意見を聞く

ことは、自分にとって刺激になり、勉強になります。委員会では、同級

生以外の若い人たちとも話しができてとても充実しています。

高橋 委員になって、自分が持っているまちづくりの思いを形に変えたいと考えました。人との出会いの広

がり、活動の広がりにもつながります。それを生かして「飯豊に生ま

れてよかった」と誇りを持てる町にしたいと思いました。

町長 当初は、委員が集まるのかと大変心配しました。しかし、こうして応募してくださった委員の皆さん

は「町をこうしたい」という信念を

にぎわいの 再現！ 2010



今年の干支「寅」は、

草木の芽の成長を表す漢字とされる。

昨年4月に発足した“にぎわい再現プロジェクト委員会”は、

およそ1年間を経て、

どんな「にぎわいの芽」を芽吹かせようとしているのか。

これまでの活動やまちづくりへの思いなどを

プロジェクト委員の代表3名が後藤町長と語り合う。

すっかり持っていて感心し、うれしく思いました。あらためて、若者がまちづくりを真剣に議論する場の大切さを実感しました。

若者が町の将来を真剣に議論

——委員になって良かったこと、または苦勞していることなどを聞かせてください。

伊藤 初めのころは、「いいで未来号」出航という到達点があつて、話し合いは順調に進みました。しかし、「いいで未来号」のプロジェクトが終了すると、今度は、委員会独自のことを始めなければなりません。議論が行き詰まり、会議が重い雰囲気となつて、出席者が減つてしまう辛い時期もありました。なんとかそれを乗り越え、今は委員の仲間が集まり、話し合いを続けています。これからも会議に行きたくなる雰囲気作りを互いにしながら、がんばっていきましょう。

屋嶋 委員になって、町内にはこんな素晴らしい若者がたくさんいるんだと感じました。「俺は今まで何していたんだらう？」と思うぐらい飯豊町の人材に感動しました。一人で考えて行動するよりは、多くの人と考えて実行した方が、実現に近づくことができます。仕事や地域の役などをこなしながら、自分の時間が取れない大変さはありますが、極力会議に出席してまちづくりに役立ち

たいと思っています。私は会議の中で「やりたいことはたくさんあつても、手を広げすぎないほうがいい」と述べています。年一回、月一回、週一回のことだとしても、ずっと継続してやるものであれば、委員会でできることと、町やほかの団体においていふことをきちんと整理しなければならぬと思うのです。

高橋 委員の人たちとの出会いが、私にとって良かったことです。委員の年齢層を見れば、しばらく町にはなかつた画期的な委員会だと思います。地域で開かれる「地域づくり座談会」は、一家から一人が出席する形態が定番となり、男性中心で年齢層の高いものです。しかしこの委員会は、若者が中心になって町のことを議論しています。苦勞している点は、固いテーマになると話し合いが行き詰ってしまうことです。私は委員長をさせてもらっていますので、みんなの意見を調整することに徹しているつもりです。「次回まで各自考えてきてください」とお願いしてもなかなか全員の意見が出揃わないこともあります。それぞれの生活や議題に対する温度差が異なる中で、どうやって各自の意見を引き出そうかと常に意識しながらやっています。また、今年は少しずつ自分のアイデアも出していききたいと思っています。



にぎわい再現プロジェクト委員長

高橋 勝

Takahashi Masaru

たかはし・まさる●1973年4月
添川生まれ。農業。職業を生かし
町内外の子どもたちへ「食農教育」
を実践中。飯豊町の田園風景をこ
よなく愛する。添川在住

にぎわい再現プロジェクト委員

伊藤 照美

Ito Terumi

いとう・てるみ●1981年4月椿
生まれ。打楽器演奏者。町内外で
マリimba演奏などの音楽活動を展
開中。人見知りしない明るい性格。
町の自然を誇りとする。椿在住



小さいことでも、まず自分でやってみることが必要 高橋勝

人材をつないで大きな力に

——飯豊町の魅力は何でしょう？
屋嶋 近所づきあいの良さです。互いに「何した？」と自分のことのように気遣い合う人柄の温かさがあります。

高橋 空気、水、米、牛肉、野菜など、飯豊のものがすべておいしいということ。それと、人とのつながりが大切にされていることです。しかし、若い世代では、それが希薄になりつつありますから、私たちが町内の「人づき合い」を再生して、次の世代に引き継げればと思っています。
伊藤 この委員会のように町のことを語り合える若者がいることが誇りだと思えます。小さな町だからこそできるのかもしれない。みんなが同じ目標に向かって進もうとすることは、素晴らしいことだと思います。私たちの年代は、町の人口が最も多かった「にぎわいの時代」を知らない世代です。「にぎわい再現」の「再現」という言葉がこの委員会にふさわしいのかと会議の中で疑問視されたこともあります。それでも自分たちなりに考える町のにぎわいを作っていくかと思っています。

——逆に町の課題は何だと感じていますか？

高橋 住んでいる人たちが「町をなんとかしなければ」という気持ち少し足りないと感じます。地区の町

長との座談会があれば、出る意見は地区の要望がほとんどです。町全体に視野を広げて考えることも、時には大切なのではないのでしょうか。町にお願したもののや、町から与えられてやる事業だけでは長続きしません。一方、自発的に行動したものは、臨む姿勢も違いますし、継続性もあります。町内にはいろんな分野で活躍している方が多くいらっしゃいます。しかし、それぞれがばらばらに点在している状態です。それぞれの点をつないで「線」にして、「面」にすることで、まちづくりに大きな力を発揮できるのではないのでしょうか。
伊藤 委員長「点をつないで線と面にする」話は同感です。会議では、まだまだ町には封鎖的で、保守的な部分が多くあるという意見もあります。若い世代の私たちにすら、どこか古風な考え方が染み付いています。あと一歩、いろんな角度や視点で新しいことへ踏み出す勇氣が必要だと思っています。

屋嶋 町内には意外と知らないところで、自分の趣味で仲間を募り、活動を行っているグループが多く存在しているようです。ただ若い人は、自分の楽しみには興味を示しても、町や地域でやっているイベントには気づかないのか、もしくは興味を示すことはありません。若者がその楽しみに加わって「交流を楽しむ」ことが大切だと思います。若い人の活

にぎわい再現プロジェクト委員

屋嶋 雅一

Yashima Masakazu

やしま・まさかず●1962年4月
萩生まれ。自営業。4人の子の父
として町の将来を真剣に問い続け
る。近所同士で助け合う人の温か
さが、町の宝と考える。萩生在住



飯豊町長

後藤 幸平

Goto Kohei



プロジェクト委員会でしっかりした施策を残す決意

屋嶋雅一

字離れが進む中で、チラシや広報だけに頼らないなんらかの方法で「町や地域ではこんなことをしていますよ」と情報発信していかなければなりません。六十歳代ぐらいの人までは、ほとんどが農家だったため容易に集まって盆踊りやスポーツなどを楽しむことができました。しかし今はそれぞれの職業や生活が異なり、気軽に集まって交流を楽しむのが難しくなっています。

高橋 その通りです。各人のライフスタイルや嗜好が多様化して、興味があればイベント情報には目も向けてもらえない。私もいろんな団体にかかわっていますが、イベントを企画して参加を呼びかけても、人を集めるのがかなり大変です。

人口減少の歯止めにもう一息

——人口減少や町の活性化などの課題に対して、皆さんはそれぞれどうお考えですか？

屋嶋 人口減少の歯止めの方策を、町内の人に対するものと、町外の人に向けて行うものと分けて考える必要があると思います。町外の人には、いかに飯豊町に来てもらうか。一つは、山形市の東北芸術工科大学のような学校があれば、若者がおのずと飯豊町で生活することになります。相乗効果として学校の存在が、町に産業を興すきっかけにもなります。次に町内の若者にずっと町に住んで

もらえるようにするには、魅力的なまちづくりが不可欠です。たとえば、きれいな歩道を作ることを提案したいです。色や模様のついた歩きたくなる道路があれば、美しい田園風景を眺めながら人はそこを歩き、町の素晴らしい自然環境を再認識すると思えます。

伊藤 町の活性化には、町内外問わず多くの人と交わる環境づくりが必要だと思えます。交流人口を増やし顔を直接合わせ、会話をしていくことで、将来のにぎわいにつながると思えます。

高橋 まちづくりから言えば、挑戦する気持ちが大切だと思います。行政の応援は当然必要ですが、小さいことでもまず自分でやってみることを動かすのはお金だけではなく、情熱だと思えます。

屋嶋 長期的に考えれば、子どもの教育も重要です。見てみると今の若者以上に、小中学生の子どもたちは自己中心的な性格が強いと感じます。都合が悪くなるとすぐ切れたり、集中できずにあきつぽくなりやすい子が多いです。将来は今以上に町や地域に無関心になりかねません。相手のことや地域のことを考えて行動できる大人になってもらうためには、今から町の教育方針にそういったこともしっかり定めて、大人が教えていかなければならないと思えます。

町長

一年間議論を続けてきただけ

Challenge

にぎわい再現プロジェクト委員会

昨年4月に発足したプロジェクト委員会は、町内から公募で選ばれた13名で構成。定期的な会合を開き、にぎわい再現に向けた施策の議論を重ねている。今年も引き続き同じメンバーで活動を継続する。



Dream

いいで未来号出航

昨年7月、洋上で夢を語り合う「いいで未来号」を実施した。応募者33名の若者を乗せ、新潟港から北海道小樽港まで航海。プロジェクト委員の皆さんは、裏方として準備に徹し、航海を成功に導いた。

私たちのこれからの活動に期待して欲しい

伊藤照美

あつて、皆さんのご意見は的を射ていると思います。個々の生活形態が多様化した中で、飯豊町の課題をしっかりと把握していると。私が地区の座談会でよく聞くのは、町のにぎわいには、「仕事があれば始まらない」というご意見です。雇用の場を創出するのは、行政の大切な役割であることは確かです。ただ、「卵が先か、ニワトリが先か」の議論のように、仕事があつて人が生まれたのではなく、人がいて、次に仕事があるのだと思うのです。私は、人を育てることから始めたいと考えます。まずはだれもが住みたいと思う町をつくることで人が集まり、後から仕事が生まれるはずで。次に人口減少の問題ですが、町の人口流出の現状を調査してみました。すると町の合計特殊出生率は、「二人」に近い数字で、決して低いものではありませんでした。問題の原因は、実は転出する人口が多いことでした。転出者と転入者の差は年間約百五十人の開きがありました。しかも転出先の七割は、置賜管内という現状です。つまり、人口減少の歯止めには、あとひとふんばりなのです。委員会では、にぎわい再現を目指す手法として、町の諸問題の一つ一つ解決していく方法をとるか、それとも楽しいことをやって人を集める方法をとるか、議論してもらいたいと思います。

美瑛町もゼロからのスタート

——昨年七月に北海道小樽港までの洋上で町の夢を語り合う「いいで未来号」が実施されましたが、皆さんはどんなことを感じましたか？

高橋 参加者からは「楽しいことをやって町を元気にしよう」という意見が多かったと思います。みんな飯豊町のことを好きで、良くしようと思ってくれているのだと感じました。それは私にとって大きな収穫でした。**屋嶋** 船酔いは心配でしたが、楽しくできたと思います。固い会議の場ではなく、環境を変えて、ざつとばらんに町のことを語り合うのはとても良いものだと思います。参加者は楽しんで自分の意見を言えたと思います。

伊藤 私は残念ながら参加できませんでしたでしたが、参加した委員の方から話を聞いたり、写真や夢を貼った大判用紙などを見せてもらうと、とても貴重な若者の生の声を聞いたのではないかと思います。

町長 私が印象に残ったのは、美瑛町での研修です。ここまで全国に名高い町になるには、相当の仕掛けをしてきたんだろうと思っていました。話を聞けば、一人の青年がまいた赤麦畑の光景をたまたま通った写真家が写真に収めたことから始まった。人と人の出会いの大切さや美瑛町の人たちが「自分たちも何もない

※人口統計上の指標で、1人の女性が一生に産む子どもの数を示す。



新春座談の様子

委員と町長の「にぎわい再現」に向けたまちづくりの議論は、2時間以上におよんだ。最後は、4人で固い握手を交わし、プロジェクトの一層の推進を誓い合った。今年のにぎわい再現プロジェクト委員会の動向が期待される。



私のまちづくりは、人を育てることから始めたい 後藤町長

いところから始まった。飯豊町さんはまだまだできる」とおっしゃってくれたのが印象的でした。また、参加者全員が船酔いにめげずに最後まで夢の語り合いに参加し続けてくれたのも頼もしかったです。

にぎわい再現が芽生えるように

——委員会での今後の活動計画などを教えてください。

屋嶋 にぎわいのある町とは何かと委員会でも話しあったとき、次の三つが当てはまるということになりました。一つ目は、住民に笑顔があふれていること。二つ目は交流が盛んであること。三つ目は安心して暮らせること。委員会としては、二つ目の交流を盛んにする方策を考えていくということになりました。

高橋 そこで委員がそれぞれの得意分野の班に別れ、それぞれにアイデアをまとめることにしました。

伊藤 各班からどんな意見が出るのか、私たち自身も楽しみです。ぜひ期待していただきたいと思えます。

町長 町民の方から「男女の出会いの場となるイベントは何かないか」と聞かれることがよくあります。ぜひ、そういう「交流」も検討してみてください。

——町長が平成二十二年に町として取り組みたいと考えていることを教えてください。

町長 もちろんまだ正式に決まってい

ませんが、役場庁舎内にお客様がお茶を飲みながら憩い、交流する場所を作りたいと思っています。また、町外からいらっしゃった方をご案内し、町の歴史や取り組みなどを見て知ってもらえるような場所も作りた

いと考えています。
——最後に皆さんが思い描く「にぎわいのある町」とはどのような町か、教えてください。

高橋 「行政に何とかしてもらおう」という依存型ではなく、「自分たちでこうしたい」という行動型に変わることが必要だと思います。それが生きがい、やりがいにつながり、町を元気にすると思うのです。

伊藤 歌や音楽を通して交流が盛んな町になるのが理想です。委員はそれぞれの得意分野を生かして発案していきたいと思っています。

屋嶋 私の目標は、現代社会で失われがちな相手を思いやる気持ちや我慢強さを子どもたちに持ってもらうことです。そのためには、委員会でしっかりとした施策の一つ、二つ残したい決意です。

町長 私も結局、にぎわいの鍵は「人」だと思います。人が何をやって何を残したか。それに引き寄せられるようにして人は集まると思います。皆さんの貴重なご意見、ありがとうございます。委員の皆さんの今年のご活躍を期待しています。

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
役場総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線224



ふるさと飯豊発見隊・風土会キャンドルナイト

冬至の夜に環境を思う

12月22日、添川温泉しらさぎ荘前の園芸ハウスでキャンドルナイトが開かれました。ふるさと飯豊発見隊と町内の農業青年でつくる風土会(共に高橋勝会長・添川)が、冬至の夜に環境問題を考えてもらおうと企画。県の「やまがた社会貢献基金」を活用して行われました。廃食用油で作ったキャンドル約1,000個がともされたほか、小豆かぼちゃやひまわり油を使ったお菓子がお客様へ振る舞われました。

白樺地区クリスマスケーキ作り

気分はパティシエ



12月23日、白樺地区公民館で、親子クリスマスケーキ作りが行われました。親子の交流を深めてもらおうと同公民館が企画し、約30人が参加しました。子どもたちは、6号サイズのスポンジに生クリーム、いちご、チョコレートなどを思い思いに飾りつけました。長沼佳奈さん(小学4年)は「お母さんに手伝ってもらって上手にできました。食べるのが楽しみです」とうれしそうに話してくれました。

西部地区ふるさと学園うどん打ち

力を込めて米粉をこねる



12月5日、西部地区公民館で、地区の小学生とお年寄りの方たち約40名が、うどん打ちを行い、交流を深めました。材料には、町内産米粉を使用。お年寄りの方からコツを教わりながらも、子どもたちは、踏んだり押ししたりしながら米粉をこねるのに悪戦苦闘。そのかいあって、うどんは、コシがあって、もちもちした食感に仕上がりました。最後に全員でうどんを食べ、参加者はおいしそうにほお張っていました。



プレミアム付き商品券販売

生活に役立ててもらいたい

12月19日と20日の両日、各地区公民館を会場に、20%のプレミアムがついた商品券が一斉販売されました。これは、住民の生活支援と町内経済の活性化を目的に町と町商工会が協力して実施したものです。販売総額は3,000万円で、6,000セットを準備。販売開始の時間とともに多くのお客様が商品券を買い求めていました。プレミアム付き商品券は、1月29日(金)まで町商工会(☎72-3000)で販売しています。完売次第終了となりますので、お早めにお買い求めください。

四季の歌“冬うた”を歌う集い

歌を通じた交流の輪



12月5日、町民総合センター「あ〜す」で、「四季の歌“冬うた”を歌う集い」が行われました。約50名が参加し、クリスマスにちなんだ歌など7曲を一緒に楽しく歌い上げました。このイベントは、昨年春から四季を通じて4回開催され、これまでに町内外から延べ200名の方が参加しました。その成果として「音楽からのまちづくり」をピーアールすると共に、合唱仲間の輪を町内外に広げることができました。

町防犯協会中部支部が防犯標語看板設置

児童たちの標語で安全な町に



12月10日、町防犯協会中部支部(高橋洋一支部長・萩生)は、防犯標語の看板を制作しました。標語は、第一小の5、6年生が創作したものから選ばれ、子どもたちの率直な声を示して地域住民の防犯意識を高めようというのが狙いです。看板は、中、萩生、黒沢地区内の4カ所に設置。標語の一つに選ばれた国分つぐみさん(5年)は「この標語で、誘拐などの起きない安全な町になって欲しいです」と話してくれました。



獣魂祭
(JA飯豊グリーンセンター)



クリスマス会
(こどもみらい館)



飯豊町こくわワイン新酒発表会
(めざみの里観光物産館)

郷土史を後世に伝えるという義務

「苦勞して集めてこられた資料を快く提供してくださった大谷部秀二先生と、そしてその資料を根気よく整理し、まとめてくれた編集委員のおかげです」
中村史「てでっほっほ」の制作に中心となつて当たつてきた長岡茂左衛門中區協議会会長は、完成の喜びを謙虚にそう語る。

本書の発刊は、第三次飯豊町総合計画による「中地区地域づくり」の一環として行われたもの。計画推進を担う「地域づくり推進委員会」から七名が編集委員となつた。

平成二十年十二月から編集を始め、昨年十二月に完成した。ページ数は九十ページにおよび、学校の変遷や文化財、方言など、中地区のあらゆることが詳述されている。二百八十部印刷され、地区内の全世帯に配布された。

長岡会長の言葉のとおり、本書の原本は、地元に住む元教諭の大谷部秀二さんが編著したものだ。大谷部さんは、町内屈指の郷土史研究家だ。本書への寄稿文によれば、提供した資料は、昭和四十七年に『飯豊史話会』に入会して以来、長年にわたり地道に調査してきたもの。

「膨大な資料だっただけに、時系列に並べ、一つ一つ筋道を立てて編集していくのは、とても大変でした。でも長年住んでいて知らなかった地区のことがたくさんあり、勉強になりました」

地域の誇りをここに記す 中村史発刊

中 区 協 議 会

「後世に中地区の歴史と誇りを伝えたい」。
大谷部秀二さんが長年かけて収集してきた膨大な資料を
中區協議会の編集委員が1年を費やし1冊の歴史書にまとめあげた。
郷土愛を育む中村史「てでっほっほ」がここに完成した。



た」と最も若い編集委員の渡部賢一さんは編集の苦労と達成感を語る。

ところで、なぜ町内で中地区だけがいまだに「ナカムラ」と呼ばれているのか？「黒沢村」や「添川村」など、いまだに「村」をつけて呼ばれるところはどこもない。大谷部さんは、そのことについても本書の中で、中地区の歴史をひもとき解説している。歴史のほかにも方言、言い伝え、わらべ歌などといった民俗にも本書は詳しい。中地区だけではなく町の歴史書としても価値が見いだせる。ほかの地区に住む人にとっても関心深い。

「年齢によって受け止め方が違うと思う。懐かしく読む人もあれば、若い人にとっては知らなかったことばかりかもしれない」と編集委員の高橋義行さんは話す。

「てでっぼっぼ」は、方言で山場のこと。「てでっぼっぼ」と鳴く声が、春光を浴びる中の美しい散居集落にこだまする情景が目につかぶ。未来にこの光景を残していきたい——。そんな編集委員のメッセージにも感じ取れる。

「現役の私たちが、住んでいる地域の歴史を次世代に伝えることは、ある意味、義務なのではないでしょうか。そしてそれが、子孫が郷土に誇りを持つことにつながると思うのです」と編集委員の田林義則さんは話す。

中村史「てでっぼっぼ」は、町民総合センター「あゝす」図書室や中部地区公民館でも読むことができる。

写真／てでっぼっぼ編集委員会の皆さん。前列左から高橋義行さん、長岡英雄さん、中区協議会会長長岡茂左衛門さん、細谷芳弘さん。後列左から渡部賢一さん、田林義則さん、大谷部良明さん。長岡会長が持っているのが、大谷部秀二さんが寄稿してくださった資料の原本



直伝おふくろの味

なす干し煮

お正月に食されてきた郷土料理



【材料】（4人分）

◇なす干し（乾燥）	50
◇ニンジン	40
◇ゴボウ	40
◇糸コン	50
◇油揚げ	1枚
◇ニシン	適宜
◇うち豆	20
◇油	大さじ1杯
◇だし汁	400
◇砂糖	大さじ1杯
◇みりん	大さじ2杯
◇しょうゆ	大さじ2杯
◇酒	大さじ2杯

【作り方】

- ① なす干しは、水から煮て沸騰したらそのまま冷ます。それを2、3回繰り返す。
- ② ニンジンは拍子切り、ゴボウはささがき、ニシンは一口大、糸コンは食べやすい大きさに切る。油揚げは熱湯をかけて油を抜き、短冊切りにする。
- ③ うち豆は鍋でひと煮立ちさせ、ざるに上げる。
- ④ 鍋に油を入れ、①、②、③をさつと炒め、だし汁、砂糖、みりん、しょうゆ、酒を加えて中火で煮汁がなくなるまで煮て、出来上がり。

なす干しのシコシコした歯ごたえがポイントです



萩生地区
食生活改善推進員
後藤せつ子さん

この料理は、義母から教わった郷土料理です。

干しなすは、保存食として重宝され、お正月には「一年分の借金をなす（方言で「返す」として、げんをかついだ料理として食べられてきたものです。

なす干しは、夏の間に作ります。大き目のナスを使い、適当な厚さと大きさに切ったものを露地で干します。厚さによりますが、2、3日で出来上がります。たっぷり天日浴びたナスは、ビタミンDを多く含み、栄養価値が大変高い食品です。

料理のポイントは、なす干しをしつかりもどすことです（作り方①）。なす干しの魅力でありますシコシコした食感をうまく引き出せば成功です。

また、好みでシメジなどのきのこを加えてもおいしいと思います。ぜひお試しください。



こどもみらい館の予定表
(1月・2月の日程)

会場/☆印は「あ～す」
ほかは「こどもみらい館」

- 1月16日(土) 10:30～ 音楽鑑賞・マリンバ演奏
- 19日(火) 10:30～ あそびの広場
- 21日(木) 13:30～ 子育て講座・体育遊び☆
- 22日(金) 10:30～ ほのぼの講座
- 26日(火) 10:00～ リトミック(3歳児)☆
- 27日(水) 10:30～ 離乳食のお話と実習
- 28日(木) 10:30～ かんがるー広場
- 2月3日(水) 10:30～ 節分豆まき
- 5日(金) 10:00～ リトミック(4歳児)☆
- 6日(土) 10:30～ ブックスタート広場
- 10日(水) 10:30～ おはなし広場
- 12日(金) 10:00～ リトミック(5歳児)☆

episode

子育て応援
kosodate
ouendan 談

親子の絆を感じる時

「一緒に喜び、一緒に涙」

親と子で夢中になれるものが一つでもあれば、それは家族にとっての生きがいにもなる。

私の子どもたちは、幼少のころからボールけりに夢中だった。おのずとサッカーというスポーツに出会い、休日はほかの子どもたちと一緒に朝から晩までグラウンドでボールを追いかける。試合があれば、父親の指導もそして私の応援にも熱が入る。負けて悔しかったときは子どもと一緒に悔し涙を流し、勝ったときは体いっぱい表現で抱き合って喜ぶ。子どもとの絆を強く感じる瞬間だ。

練習や試合を通して、子どもたちは人生の試練を学んでくれた。必ずしも勝つことだけがすべてじゃないと。汗と涙を流す子どもたちの姿を見て、私たちは成長を感じ、頼もしさを感じていった。

● 役場教育文化課子育て支援室

● こどもみらい館

TEL72-2111内線160・163

TEL72-3336



今月の
おすすめ図書



児童図書

「ふゆですよ」

降矢なな/絵 柴田晋吾/作
金の星社

心温まる冬が来ました。山にも、海にも、田んぼにも、公園にも…。みんなは冬をどんなふうにご過ごすのかな？いろいろな場所で冬を迎えるさまざまな生きものたちに出会える絵本。



児童図書

「パパはじどうしゃだった」

角野栄子/作 オームラトモコ/絵
小学館

わたしのパパって、パパになる前は自動車だったんだって！その次は、ベッドにしているシーツ…。「自分で読めるようになりたい！」という子どもの気持ちを伸ばす幼年童話シリーズ。

一般図書

「ハッピー・リタイアメント」

浅田次郎/著 幻冬舎



突如再就職先として幹旋された天下り組織の体質に今イチ馴染めない樋口と大友は、教育係となった秘書兼庶務係の立花葵から秘密のミッションを言い渡される…。『GOETHE』連載をまとめて単行本化。

一般図書

「宇宙で過ごした137日
僕の「きぼう」滞在記」

若田光一・朝日新聞取材班/著
朝日新聞出版



宇宙飛行士・若田光一が、日本初の有人宇宙施設「きぼう」で過ごした137日の行動記録を完全収録。微小重力下での実験、有人宇宙開発のあゆみなども紹介する。

● 開館時間 午前9時～午後5時

● 休館日 毎週月曜日・祝日

● 問合せ先 町民総合センターあ～す図書室 TEL72-3111

ルーエッセー 校長室便り

「あの西郷隆盛が 手ノ子を通った！」

手ノ子小学校 高井耕次校長

Profile



たかい・こうじ
1954年5月、長井市生まれ。第一小学校教頭、川西町東沢小学校を経て08年4月より当校に着任。趣味は歴史と自然探訪。教育者としてのモットーは「実績を示して信頼を得る」。確かな教育実践を通して、地域に信頼される学校づくりを目指している。長井市在住

「えっ、うそでしょう？」

私は、飯豊町の町史のページをめくり驚きました。そこには、『手ノ子村上氏宅で西郷隆盛が小休止をして書いたと言われる掛け軸』という写真が掲載されていたのです。地元の歴史に詳しい井上俊雄さんに伺うと「そういう言い伝えがあります」とのお答え。

早速、井上さんと二人で調べてみることにしました。その結果、手ノ子松嶋屋に残る古文書の写しには、「掛け軸は本物である」と書かれており、また手ノ子源居寺に残る手紙は、西郷の



西郷隆盛が手ノ子に残したと伝えられる掛け軸

ものであると推測できました。文献や古文書から私

なりに推測できたのは、次のことです。西郷は明治元年（一八六八年）旧九月十二、三日ごろ、宇津峠を越えて手ノ子宿をお昼ごろに通過。役職は薩摩藩総差引（言うならば官軍の総司令官か）。手ノ子八幡神社祠官の村上氏宅で昼食をとる。その後、官軍参謀の黒田清隆らと共に松原宿、小松・米沢を経由して鶴岡城の開城に臨む。

このように、幕末三傑の一人、西郷がお忍びで飯豊を通行していたことある程度証明できるのです。

「敬天愛人」で知られる歴史上の偉人西郷隆盛の通行の事実が、少しでも飯豊町、ひいては手ノ子の魅力を再発見する機会になれば、という熱い思いから執筆いたしました。

東京飯豊会から故郷の皆様へ 新年のごあいさつ

東京飯豊会会長 高橋正孝



たかはし・まさたか◎1940年7月、飯豊町大字広河原生まれ。(南海雲堂代表取締役。千葉県千葉市在住。06年3月東京飯豊会会長就任。現在の東京飯豊会会員数は約1,300名)

ふるさと飯豊町の皆様、新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は「にぎわいのまちづくり」に後藤町長をはじめ、町民の皆様で取り組まれ、各分野に成果をあげられましたことにお喜び申し上げます。

今日、新幹線とインターネットは故郷を離れて暮らしている私どもと飯豊町との距離感を大幅に縮小することになりました。私事ですが毎日、町のホームページで皆さんの暮らしや活動を、また役場のライブカメラで懐かしい田園風景の晴天、雪、風雨、四季の移り変わりを楽しんでおります。

平成20年秋以来の世界的金融危機による経済不況の厳しい環境は、地球規模に覆われておりますが、飯豊町におかれましては、雄大な風景、清冽な水と

空気、「結い」による共助共栄の伝統ある暮らし方、進取の精神性などを優れた資産とし、「にぎわい再現」元気なまちづくりにますます大きな成果をあげられますよう願うものです。

東京飯豊会は本年創立49年を迎えます。申し上げますまでもなく、故郷飯豊町の皆様の多面的継続的なお力添えをいただいた賜物と感謝申し上げます。

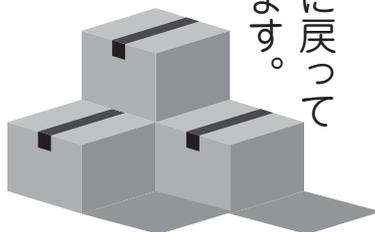
来る3月7日に第49回総会・懇親会を開催いたします。東京および東京近在にお住まいのご親戚、同級生などお知り合いの方々が懐かしく心豊かな一日を過ごしていただきますよう、お知らせくださいますことを皆様をお願い申し上げます。

終わりに皆様のこの1年をご健康にお過ごしくださることをご祈念申し上げます。

第49回東京飯豊会総会・懇親会

日時／3月7日(日) 午前11:00 開会
場所／ホテル ラングウッド (JR日暮里駅 南口下車)
東京都荒川区東日暮里 ☎03-0803-1234

春から
地元の飯豊に戻って
新生活始めます。



Im going to move

この時期は、新天地での就職・進学先などが決まるころです。
春から飯豊町で新たな生活を始める方もいらっしゃるでしょう。

また、親元を離れ、進学・就職する方も。

引っ越すときは、役場にどんな届出をすればいいのか、今から確認しておけば安心です。

転 入 届

■届出期間／飯豊町に住み始めてから14日以内

飯豊町に住み始めてから14日以内に、前住所地から交付を受けた「転出証明書」を持って転入届をしてください。

- **手続きに必要なもの**／転出証明書、印鑑、交付を受けている場合は年金手帳など
- **住民票・印鑑登録証明書について**／転入届が終了すれば、すぐに住民票を交付することができます。印鑑登録も同時に登録・申請すれば交付することができますので、登録する印鑑をお持ちください。
- **会社を退職し、町へ転入する方へ**／国民健康保険と国民年金の加入手続きもあわせてすることができます。会社から交付される「離職票」または「健康保険・厚生年金資格喪失証明書」をご持参ください。

転 出 届

■届出期間／①転出することが確定した後、その場所を去るまでの間
②転出後、14日以内

飯豊町からほかの市町村に住所を変更するときの手続きです。あらかじめ転出先の住所を確認の上、住民税務課住民室の窓口までお越しください。窓口で「転出証明書」を交付します。

外国人登録をされている方は、本人（16歳未満の方は家族の方）が、外国人登録証明書を新しい居住地の市区町村へ提出し、変更登録申請を行ってください。ただし、国民健康保険証をお持ちの場合は、必ず役場に返還してから転出してください。

- **手続きに必要なもの**／印鑑、交付を受けている場合は印鑑登録証、国民健康保険証、住基カードなど

上記の届出には、本人確認できる身分証明書が必要です。
運転免許証など国・地方公共団体が発行した身分証明書をご持参ください。

INFORMATION

役場住民税務課の窓口では、日中来れない方のために窓口延長を行っています。

- ◎窓口延長日／月曜日、金曜日の週2回（要予約）
- ◎窓口延長時間／午後6時30分まで
- ◎予約の受付／当日の午後1時まで下記へご連絡ください（受付は1週間前から）

届出・問合せ先◎役場住民税務課住民室 ☎72-2111内線120・122・124・127

白色申告で農業所得がある方へ

check 1

収支計算による申告です。

- 持ち物／出荷証明書、購買証明および土地改良費などの領収書類

※なお、帳簿などで収入と経費を管理されている方や収支内訳書に記入されている方は不要です

農業・営業・不動産など事業所得のある方へ

check 2

- 持ち物

①収入を確認できるもの

出荷証明書、売上帳票、伝票、帳簿など

②経費を確認できるもの／購買明細書、仕入明細、レシートなどの領収書・請求書・帳簿など

給与所得や年金所得がある方へ

check 3

- 持ち物／源泉徴収票

障がい者控除を受けられる方へ

check 4

- 持ち物／障がい者手帳

要介護認定を受けている方へ

check 5

要介護認定を受けている方で、「身体障がい者に準ずる者」と認定された場合、障がい者控除を受けることができます。ご希望の方は町健康福祉課福祉室（☎86-2233）に相談してください。対象となる場合には平成21年分「障がい者控除対象者認定書」が発行されますので持参ください（無い場合は障がい者控除を受けることができません）。

国民年金の保険料で社会保険料控除を受けられる方へ

check 6

- 持ち物

領収書または社会保険庁から発行された証明書

※領収書の添付や提示が義務付けられていますので、必ず持参してください

医療費控除を受けられる方へ

check 7

- 持ち物／領収書

※時間短縮のためあらかじめ医療費の総額を計算してください。また、高額医療費がある場合や保険などでの補填金がある場合には、その金額が控除額から除かれますので事前に把握をお願いします。

申告に必要な書類について

documents

町からお送りする申告書が入った封筒裏面に必要書類を記載していますので、確認いただき、当日必ずご持参ください。必要書類のない場合は再度お越しいただくか、税務署に直接出向いていただく場合もございますので不備がないかも一度確認をお願いします。

①申告される方全員

- 町民税・県民税個人申告書
- 所得税確定申告書（送付されている方）
- 印鑑
- 源泉徴収票（給与・年金）

②各種控除を受けられる方

- 生命保険料支払証明書
- 個人年金保険料支払証明書
- 地震保険料支払証明書（平成18年12月31日までに締結した長期損害保険料支払証明書）
- 農業者年金の領収書
- 国民年金保険料の領収書
- 医療費の領収書
- 身体障がい者手帳など（該当者）
- 障がい者控除対象者認定書
- 寄付金を行った団体の発行する領収書

③農業・営業・不動産、そのほか事業所得申告者（①、②に加えて）

- 収支内訳書
- 米・野菜等出荷額明細書（農業所得者）
- 購買証明書
- 収支計算書（営業・そのほか事業所得者用）
- 収入、支出の内容がわかる帳簿
- 経費に係る各種領収書・証明書

④その他

所得税の振替納付や還付を受ける場合は、金融機関名・支店・口座番号がわかるものと通帳の届出印

申告される皆さんへ

one point advice

役場住民税務課税務室

松山智香子 主事

事前の書類整理と計算が迅速な申告に



所得税や町・県民税の申告は、町の申告相談会場に来ていただく方法のほか、税務署で申告する方法や自宅で作成し税務署に郵送する方法などもあります。さらに最高5,000円の税額控除が受けられるインターネットを利用した「e-tax」などがあります。詳しくは、長井税務署（☎84-1810）か役場住民税務課へお問い合わせください。

申告会場でスムーズに申告を済ませるには、事前に領収書や帳簿を整理し、計算しておくことが大切です。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。



町 県 民 税 申告相談会

TAX

平成21年分の町県民税申告相談を下表の日程で行います。申告相談の際の注意点などをまとめましたので、ご覧の上、必要な書類の事前の準備をお願いします。

2月8日(月)から開始 ④ 役場住民税務課税務室 ⑤ 72-2111内線128・129・130

税 申 告 相 談 日 程 表

schedule

月 日	会 場	午前の部 (9:00~11:00)	午後の部 (13:30~15:30)	
		相談対象地区	相談対象地区	
2月8日(月)	西部地区公民館	町上(手ノ子)・町下	町中・向原	
9日(火)		八幡・落合・向原北・荻	西高峰・中通・橋本	
10日(水)		東向・西向		
12日(金)	東部地区公民館	上町・昭和	上代・下川原	
15日(月)		東山・中洞	下町・大旦	
16日(火)		松原		
17日(水)		農業青色申告者(中西以外の中地区)	農業青色申告者(中西・小白川・中津川)	
18日(木)	町民総合センター 「あ〜す」	農業青色申告者(萩生)	農業青色申告者(黒沢・高峰)	
19日(金)		農業青色申告者(椿)	農業青色申告者(添川・松原・手ノ子)	
23日(火)		駅前・上野(椿)	高柳・坪沼・五反田・二本松	
24日(水)		厚生・坂ノ下	諏訪・小原・下椿	
25日(木)		椿第一・辻	財津堂	
26日(金)		上郷・中郷	十文字・上野(小白川)	
3月2日(火)		下野・北上野・野山		
3日(水)		中津川地区公民館	岳谷・岩倉・川内戸	白川・下屋地・宇津沢
4日(木)			上原・遅谷・数馬・広河原・小屋	
5日(金)		中部地区公民館	深淵西・深淵東・谷地田	吉長・旭・叶内
8日(月)	中西・北酒町		中北・南新田	
9日(火)	高野・寺分・酒町・いいでハイツ		町西	
10日(水)	町上(3組・三本柳)		町上(1組・2組・二反田)・北新田	
11日(木)	沖・萩生町		石原(石原・石箱)・中ノ目北	
12日(金)	石原(才川・栄・和合・原尻)		中ノ目南	
14日(日)	3月12日までに来れなかった方(農業青色申告者を除く)			
15日(月)	まだ申告が済んでいない方			

飯豊町役場

電話 0238-72-2111
FAX 72-3827
ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

国有森林モニター募集

国有林の管理・経営に関する皆さんの意見をお聞かせください。

- ◆募集人員／48名
- ◆応募締切／1月31日(日)
- ◆任期／平成22年4月～平成23年3月
- ◆内容／アンケートへの回答、国有林モニター会議への出席
- ◆その他／応募資格、応募方法などは下記までお問い合わせください
- ◆応募・問合せ先／東北森林管理局国有林モニター係 ☎018-836-2274

エコポイントの申請はお早めをお願いします

エコポイントの登録申請期限は、4月30日までです。期間間近での申請は、集中することが予想されます。登録申請はお早めをお願いします。

- ◆問合せ先
- ◇ホームページ
http://eco-points.jp/
- ◇ナビダイヤル／☎0570-064-322
9：00～17：00（土日祝日含む）

山形県特定(産業別)最低賃金

県内の労働者(臨時、パートタイマー、アルバイトなどを含む)に適用される最低賃金です。

	最低賃金		効力発生日
電気機械器具等製造業	1時間	715円	21.12.25
一般産業用機械等製造業	1時間	730円	
自動車・同附属品製造業	1時間	731円	
自動車整備業	1時間	733円	10.3.4
家具製造業	1時間 1日	636円 5,085円	
医療用機械器具等製造業	1時間 1日	634円 5,070円	8.1.10

- ◆相談・問合せ先／山形労働局労働基準部賃金室 ☎023-624-8224

西置賜就職面談会のご案内

厳しい雇用状況を受けて、長井公共職業安定所では西置賜就職面談会を開催します。就職希望者および事業所の皆様の参加をお待ちしています。

- ◆日時／2月9日(火) 13：30～16：00
- ◆会場／タスパークホテル(長井市)
- ◆事業所の申込締切／1月29日(金)
- ◆就職希望者の申込
直接会場へお越しください
- ◆申込・問合せ先／長井公共職業安定所 担当：竹田 ☎84-8609

やまがた緑環境税による森づくり活動支援

県では、やまがた緑環境税を活用し、皆さんの森づくり活動を支援します。

- ◆支援する活動内容
- ①森林・自然環境学習
- ②自然環境の保全活動
- ③豊かな森づくり活動
- ④森林資源の利活用
- ◆募集締切／2月16日(火)まで
※応募方法などの詳細は下記まで
- ◆問合せ先／役場産業振興課農林整備室 ☎72-2111内線270・271
置賜総合支庁森林整備課森づくり推進室 ☎0238-35-9053

公道にはみ出した庭木などの剪定をお願いします

家庭の庭木などが公道にはみ出していませんか？ 特に冬期間は、庭木からの落雪で歩行者がけがをしたり、除雪車の作業にも障害となります。事故などを未然に防止するため、ご自宅の周囲をご確認いただき、支障となる枝の除去をお願いします。

- ◆問合せ先／役場地域整備課建設室 ☎72-2111内線158

町営住宅入居者募集

下記の町営住宅では、入居者を募集します。入居には、公共料金に未納がないことや所得額などの条件がありますので、お申し込みの際、ご確認ください。

- ◆いいでハイツ
- ◇募集戸数／5戸
- ◇所在地／萩生3623-3
- ◇間取り
6畳和室(2部屋)+4.5畳和室+DK
- ◇家賃／34,200円～ ※駐車場代別
- ◇申込期間／随時受け付け
- ◆中ノ目団地
- ◇募集戸数／1戸
- ◇所在地／萩生564-1
- ◇間取り
8畳和室(1部屋)+6.5畳洋室+LDK
- ◇家賃／23,800円～35,500円
- ◇申込締切／2月5日(金)まで
- ◆手ノ子団地
- ◇募集戸数／1戸
- ◇所在地／手ノ子1509-9
- ◇間取り
6畳和室(2部屋)+9畳洋室+DK
- ◇家賃／19,200円～28,600円
- ◇申込締切／2月5日(金)まで
- ◇申込・問合せ先／役場地域整備課建設室 ☎72-2111内線157

あ～す図書室 臨時休館のお知らせ

2月1日(月)から2月22日(月)まで、蔵書点検とシステム更新のため臨時休館となります。貸出期限の過ぎた図書をお持ちの場合は、速やかに返却をお願いします。また、閉館時は「図書返却口」をご利用ください。

- ◆問合せ先／町民総合センター「あ～す」 ☎72-3111

戸籍の窓

(12月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所	氏名
(川西町)	佐藤友幸さん
(萩生)	本間郁恵さん
(萩生)	宇津木晃さん
(庄内町)	富樫麻由子さん
(小白川)	横山智幸さん
(寒河江市)	杉浦美和さん
(萩生)	木村哲さん
(米沢市)	鈴木明美さん
(小白川)	房間良樹さん
(手ノ子)	鈴木淳子さん

お誕生おめでとうございます

住所	氏名	ご両親
添川	伊藤陸くん	(友洋 知佳子)
萩生	坂田妃ちゃん	(光明 美)
中長岡	岡采葉ちゃん	(正宏 郁子)
椿安部	冬馬くん	(敏治 麻耶)
椿安部	夏芽ちゃん	(智也 優)
岩倉	長谷部蓮人くん	(義勝 千春)

心からおくやみ申し上げます

住所	氏名	年齢
手ノ子	向原渡部栄次さん	84
添川	東山佐原勉さん	83
小白川	中郷舟山安次さん	84
椿	下野高橋健作さん	86
手ノ子	町上高橋カネさん	76
椿	小原坂爪朝次さん	83
黒沢	町上木村宮子さん	84
添川	伊藤ちようさん	92
手ノ子	萩高橋つぎさん	95
小白川	中郷山口好雄さん	79

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

		12月分 () 内は対前月比		
世帯数	2,401 (3)	転入	9	
人口	男	4,034 (-6)	転出	11
	女	4,285 (0)	出生	6
計	8,319 (-6)	死亡	10	

おすすめ情報

町の男声合唱団結成
メンバー大募集!

この度、飯豊町に男声合唱団が誕生することになりました。活動は、月2回の練習や音楽祭などへの参加を予定しています。初めて合唱をされる方も大歓迎! お気軽にご参加ください。

◆顔合わせ会

◇日時/1月29日(金) 18:30~

◇場所/町民総合センター「あ〜す」

◇内容/①パート分け、発声練習

②設立総会・交流会

◇参加費/2,000円(交流会費として)

◆その他/会費は設立総会にて決定となりますが、入会費2,000円、月会費1,000円の予定です

●申込・問合せ先/町民総合センター「あ〜す」 ☎72-3111

「日本で最も美しい村」連合
フォトコンテスト作品募集

◆テーマ/日本で最も美しい村の情景

◆撮影対象エリア/「日本で最も美しい村」連合に加盟する33町村・地域

※県内では飯豊町と大蔵村が加盟

◆応募締切/7月20日(火)

◆応募方法/1人1町村につき3作品まで、合計10作品まで応募できます

◆賞金/グランプリ1点賞金10万円、準グランプリ2点賞金5万円など

◆その他/作品規定などの詳細は下記までお問い合わせください

◆応募・問合せ先/役場総務企画課総合政策室 ☎72-2111内線227・228

飯豊学講座
いいで地域史学習会

◆第1講座(考古部門)

◇日時/1月23日(土) 13:30~16:00

◇講師/考古学研究者 高橋拓氏

◇テーマ

近世置賜地方の焼き物と榎焼

◆第2講座(地理部門)

◇日時/1月30日(土) 13:30~16:00

◇講師

米沢中央高校副校長 佐藤五郎氏

◇テーマ

最上川の舟道開削と舟運の歴史

◆第3講座(歴史部門)

◇日時/2月13日(土) 13:30~16:00

◇講師/元・村上市史編纂専門員 大場喜代司氏

◇テーマ/村上藩と米沢(置賜)地方

◆場所/町民総合センター「あ〜す」

◆参加費/1講座500円(資料代)

◆申込・問合せ先

役場教育文化課生涯学習振興室

☎72-2111内線160・162

こどもゆきみらい
絵画作品募集

小学生の皆さんの雪への愛着を描いた作品を募集します。

◆テーマ/楽しかった雪の思い出

◆募集締切/2月1日(月)

◆応募資格/県内在住の小中学生

◆応募基準/画用紙四つ切りサイズ 絵の具、クレヨン、色鉛筆など(油絵、貼り絵は除きます)

◆応募方法/個人、学校単位

◆応募・問合せ先/やまがたゆきみらい推進機構事務局(村山総合支庁北村山総務課内) ☎0237-47-8614

◇新年明けましておめでとうございます。今年も「広報いいで」をご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。▽にぎわい再現プロジェクト委員と町長の新春座談を、皆さんは、どうお感じになったでしょうか? 高橋勝委員長の「小さいことでもまず自分でやってみる」。その言葉が胸に響きます。たとえ小さな一歩でも、それがやがて町のシンボルに変わるかもしれません。北海道美瑛町の青年が畑にまいた一粒の赤麦の種のように、▽町民の皆さんのまちづくりの軌跡を「広報いいで」は、今年もしっかりと刻んでいく決意です。(横山)



Profile

すずき・まき◎1972年3月、中生まれ。高校を卒業と同時に18歳で単身渡米。テキサス州とメリーランド州の短大で英語を学び、93年9月、ワシントンD.C.のアメリカン大学に編入。国際関係を専攻し、95年に卒業。その後、日本へ戻り国際開発コンサルタント会社などに勤務。99年9月に再び渡米し、ニューヨーク大学大学院に入学。00年9月、大学院で学びながら国連開発計画（UNDP）に勤務。01年5月、公共政策に関する修士号を取得し大学院を卒業。02年6月からNGOヘレン・ケラー・インターナショナルに勤務。途上国援助活動の企画・管理部門で活躍。09年12月に、米国での就労期限を迎え、帰国。現在は、飯豊町で休養中。自分の性格は、「負けず嫌い」と自己分析。尊敬する人物は、「仕事に対する責任を教えてくれた父と温かく支えてくれた母」と語る

Suzuki Maki



INTERVIEW

FOR BOYS & GIRLS IN IIDE TOWN

夢はかなう。

元国連機関コンサルタント

元ヘレン・ケラー・インターナショナル職員

鈴木真紀さん・中出身



タンザニアの子どもたち（鈴木真紀さん撮影）

世界中の人たちとの出会いを求め、高校卒業と同時に単身アメリカへ。

やがて彼女は、世界各地の貧困国の支援活動に情熱を注ぐ。

飯豊町で育った若者が、大志を抱き、世界で働く夢をかなえた。

15年間の外国生活で得た経験や夢の大切さなどをインタビュー。



ヘレンケラー・インターナショナル◎1915年、ヘレン・ケラー女史の発意により、第1次世界大戦で失明した兵士の再就職を助けるために設立された非営利の民間団体。現在は、発展途上国を対象に眼病対策の予防・治療支援を行っている。本拠地はニューヨーク（写真の名刺は、鈴木さんが在職中のときのもの）

アフリカにて Project



ヘレン・ケラー・インターナショナル (HKI) は、アフリカやアジアなどの途上国で失明予防プログラムに取り組んでいる。鈴木さんは、昨年12月までの2年間、アフリカのタンザニア、マリ、ニジェールを担当。何度も現地に足を運びプロジェクトを推進してきた。



写真上／眼病で片目を失明した女性。顔を洗うための清潔な水が乏しい地域では、病原体による眼病が発生しやすい。写真下／目の検査をするHKI職員。鈴木さんはスタッフと共に僻村を巡回し、支援事業の効果を確かめ、問題点を洗い出す任務を担っていた (タンザニアにて鈴木真紀さん撮影)

両親は決して教育熱心な方ではなく、むしろ子どもたちには放任主義でした。それでも、高校卒業後の進路を米国留学と決意し両親に打ち明けると、猛反対を受けました。当時アメリカでは日本人留学生が射殺された事件があり、アメリカの銃社会に対しての怖さがあったからなのでしょう。

私の中では、英語を学ぶために留学するのではなく、英語が当たり前の条件の中で、新しい分野の勉強に挑戦したかったのです。私の熱意を姉と担任の先生が真摯に受け止めてくれて、両親を説得してくださいました。高校の英語の先生は、留学先の学校と寮を探してくださいました。多くの方の応援があったからこそ夢がかなったのだと、今でも感謝しています。

学生生活で感じたことは、心から信頼し合える現地の友人をつくるには時間がかかるということ。

相手に言いたいことをきちんと伝えられる英語力と、さらに人種の垣根を越えられる積極性が必要です。私は三年間ぐらいいコミュニケーションが上手にとれずに苦労しました。日本人特有の「照れ笑い」や「はにかみ」が、外国では信頼関係をつくる際の妨げになる場合もあることを知りました。

大学卒業後は、東京のコンサルタント会社に勤めましたが、再び渡米してニューヨーク大学大学院で勉強し直しました。その後、機会に恵まれ、国連、そしてヘレン・ケラー・インターナショナル (HKI) で働くことができました。

HKIでは七年間、アフリカやアジアなどの途上国を中心に二十カ国以上で、眼病対策支援のプロジェクトにかかわってきました。

私の任務は、支援事業の進捗状況を現地で確認し、改善点があれば計画を見直し、より現地に合った

夢をかなえる大きな力は “Keep on doing what you love” 自分にとって大切なことを続けること

支援策を提案することです。任務地のほとんどは、開発が遅れている僻村です。衛生環境の悪さや地域医療の未発達、治療技術の低さなどが住民の眼病を招き、結果的に失明につながります。それを防ぐのが私たちの支援活動でした。

中国の広州の貧しい村でのことです。私たちが無料で目の治療をすると聞き、貧困から医療とは無縁だった村人たちが大勢で押し寄せました。その中に白内障を患っていた老女がいました。幸いに彼女は、治療の成果があり視力を回復することができました。老女は、病院の廊下でいた中国人の眼科医と私を見つけ駆け寄ってきました。そして私の腕をつかみ「ありがとう、あなたのおかげで光を取り戻すことができました」と涙を流しながら感謝されました。私は恐縮し「治療をされたドクターのおかげです」と伝えると、すかさず隣

にいた眼科医は、「いえ、彼女は鈴木さんに感謝しているのですから、受け止めてあげてください」とおっしゃってくださいました。この言葉を聞き、仕事に誇りを感じると共に、眼科医の人柄に感動したのを鮮明に覚えています。

国籍を越えて世界中の人たちと一緒に仕事をしてきて感じたことは、仕事ができる人は、人柄も素晴らしいということです。コミュニケーションを良好にできる人は、チームワークを円滑にし、プロジェクトを良い方向へ導いてくれます。一人でやれる仕事は少なく、みんなでやって初めて大きな成果につながると思います。

飯豊町の中学生、高校生の皆さんには夢を大切にして欲しいと思います。「Keep on doing what you love (君にとって大切なことを続けるんだ)」。その気持ちは夢をかなえる大きな力になると思います。



鈴木さんは、ほかに中国、バングラディッシュ、ベトナム、ネパールなど20カ国以上で任務に当たってきた。パスポートは、4年間で2冊にわたり、通常のものよりページが多い特別仕様。各国の出入国のスタンプで埋まっている



月影のワルツ

(撮影場所／中津川地内)

【入選作品】



写真は、平成20年度に開催されました「未来につなぐいいでフォトコンテスト」で入賞された作品です。

撮影者

藤田一成さん (福島県郡山市)

写真撮影のため、フォレストいいで近くの目的地である白川湖に午前5時ごろ到着しました。辺りはまだ薄暗いが、目の前には素晴らしい景色がありました。月の光は輝き静寂な湖へオレンジ色の影を映し、さらに山には帯状の霧が流れている幻想的な光景に圧倒されながらシャッターを押したことが昨日のように鮮明に思い出します。

写真家 佐藤秀明先生の講評

作者にはワルツを奏でたくなるような風景だったのでしよう。しかし、月光を反映する湖面の静けさや月をもう少し文学的な題名で表現したほうが良いような気がします。でもこういう光景をいざ写真にすると、なかなかうまくいかないものです。私も何度も失敗しました。よくまとめたと思います。

